

NHK学園

# 書道・ペン字検定

# 課題集

保存版

2022年4月改訂

NHK学園で実施している書道・ペン字検定の課題集です。

級位から段位へと、自分の実力が確認できます。技術を磨き、ぜひ師範まで目指してください。

級位・段位を早く上げたい方は、毎回受けることをお勧めします。講座の受講とともに実力を養う一つの機会としてご利用ください。

師範試験も通信（在宅）で受験できます。

# ペン字部門

## 初めて受ける方の課題

きれい ありがとう	シヨップ 兄弟姉妹	ご自愛ください	お世話になりました	氏 名
--------------	--------------	---------	-----------	--------

和田康子書

### ●慣用句を楷書体で書きます。

#### ポイント

- ・楷書作品ですので、一点一画を明確にし、つりあいのとれた、整然とした字形に仕上げましょう。
- ・各行はお手本の通りにおさめ、最終行には、本文との調和を考え氏名を本文より少し小さく入れてください。
- ・行頭を揃え、まわりの余白とのバランスも考慮してください。

# 7級課題

(現在8級の方の課題)

和田康子書

訝して山ほととぎすほしいまま

紫陽花に秋冷いたる信濃かな

夕顔やひらきかかりて襞深く

氏

名

杉田久女の句

訝いだま  
紫陽花あじさい  
襞ひだ

●俳句三句を楷書体で書きます。

ポイント

- ・楷書作品ですので、一点一画を明確にし、つりあいのとれた、整然とした字形に仕上げましょう。
- ・お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。
- ・最終行には、本文との調和を考え氏名を本文より少し小さく入れてください。
- ・行頭を揃え、中心を通して書きましょう。

## 6級課題

(現在7級の方の課題)

松尾芭蕉の句

	○ ○ 書	身 <sup>み</sup> にしみて大根からし秋の風	ひばりなく中の拍子 <sup>ひょうし</sup> や雉子 <sup>きじ</sup> の声	
--	-------------	-----------------------------	--	--

●俳句二句を楷書体で書きます。

ポイント

- ・上の課題は活字です。活字の形にまどわされず、**楷書体**で字形を整えて書きましょう。紙面に対する文字の大きさに注意して、中心を通して書きましょう。
- ・最終行には、本文との調和を考え名前（姓は書きません）を本文より少し小さく入れてください。
- ・7級課題手本を参考にしてください。
- ・ふり仮名は書きません。

初 恋
まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
○ ○ 書

湯川三壽書さんじゅ

## ●詩を楷書体で書きます。

## ポイント

- ・楷書作品ですので、一点一画を明確にし、つりあいのとれた、整然とした字形に仕上げましょう。
- ・お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。
- ・最終行○○には、本文との調和を考え名前（姓は書きません）を本文より少し小さく入れてください。
- ・行頭を揃えましょう。

## 4級課題

(現在5級の方の課題)

早春の候 秋涼のみぎり
まずは取り急ぎお礼まで
とり急ぎお返事申し上げます
皆様方のご健勝をお祈りいたします
○ ○ 書

●手紙用語を楷書体で一行ずつ空けて書きます。

ポイント

- ・活字の形にまどわされず、楷書体で字形を整えて書きましょう。紙面に対する文字の大きさに注意して、中心を通して書きましょう。
- ・最終行○○には、本文との調和を考え名前（姓は書きません）を本文より少し小さく入れてください。
- ・横書きは、文字の高さの中心（＝重心）を通して書きます。
- ・5級課題手本を参考にしてください。

### 3級課題

(現在4級の方の課題)

湯川三壽書

我と来て遊べや親のない雀

雪とけり村いっばいの子どもかな

○ ○ 書

小林一茶の句

●俳句を行書体で書きます。

ポイント

- ・お手本をよく見て、行書体のくずし方、連綿の続け方に気をつけて書きましょう。
- ・最終行○○には、本文との調和を考え**行書体**で名前を入れてください。
- ・お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。

## 2級課題

(現在3級の方の課題)

梅雨の候  
ご多忙の折恐縮です

寒中御見舞い申し上げます

○  
○  
書

●手紙用語を行書体で書きます。

ポイント

- ・活字の形にまどわされず、行書体で点画に丸みを持たせて書きましよう。
- ・ひらがなは行書に調和するように書き、連綿してもよいです。
- ・○○の部分には、本文との調和を考えて名前を入れてください。
- ・3級課題手本を参考にしてください。

# 1級課題

(現在2級の方の課題)

(1・2の二課題、用紙二枚を提出)

## 課題①

竹馬の友
食わず嫌い
笑う門には福来る
好きこそ物の上手なれ
ローマは一日にして成らず
人事を尽くして天命を待つ
朱に交われば赤くなる
備え有れば患無し
旅は道づれ世は情け
氏名

## 課題②

そのとき、向ふの白い河原を、肌ぬぎ
になったり、シャツだけ着たりした大人
が、五六人かけて来ました。そのうしろ
からは、ちやうど活動写真のやうに、一
人の網シャツを着た人が、はだか馬に乗
って、まっしぐらに走って来ました。
〇〇書

●課題①は楷書横書き作品、課題②は行書縦書き作品です。

審査は両課題を総合して評価します。

●課題①……ことわざなどを書きます。

**楷書体**でおさめます。一行の字数は活字の通りにおさめます。最終行には、本文との調和を考え氏名を入れてください。

### ポイント

楷書作品ですから、一点一画を明確にし整然とした字形に仕上げます。罫の余白に気を付け、文字の高さの中心を通して書きましょう。また、行頭を揃えましょう。

●課題②……宮澤賢治『風の又三郎』より

**行書体**でおさめます。最終行には本文との調和を考え名前を入れてください。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。

### ポイント

行書作品ですから点画に丸みを持たせ、流れ、リズムを大切に、くずし方を確実にしましょう。また、連綿を適宜とり入れてみましょう。

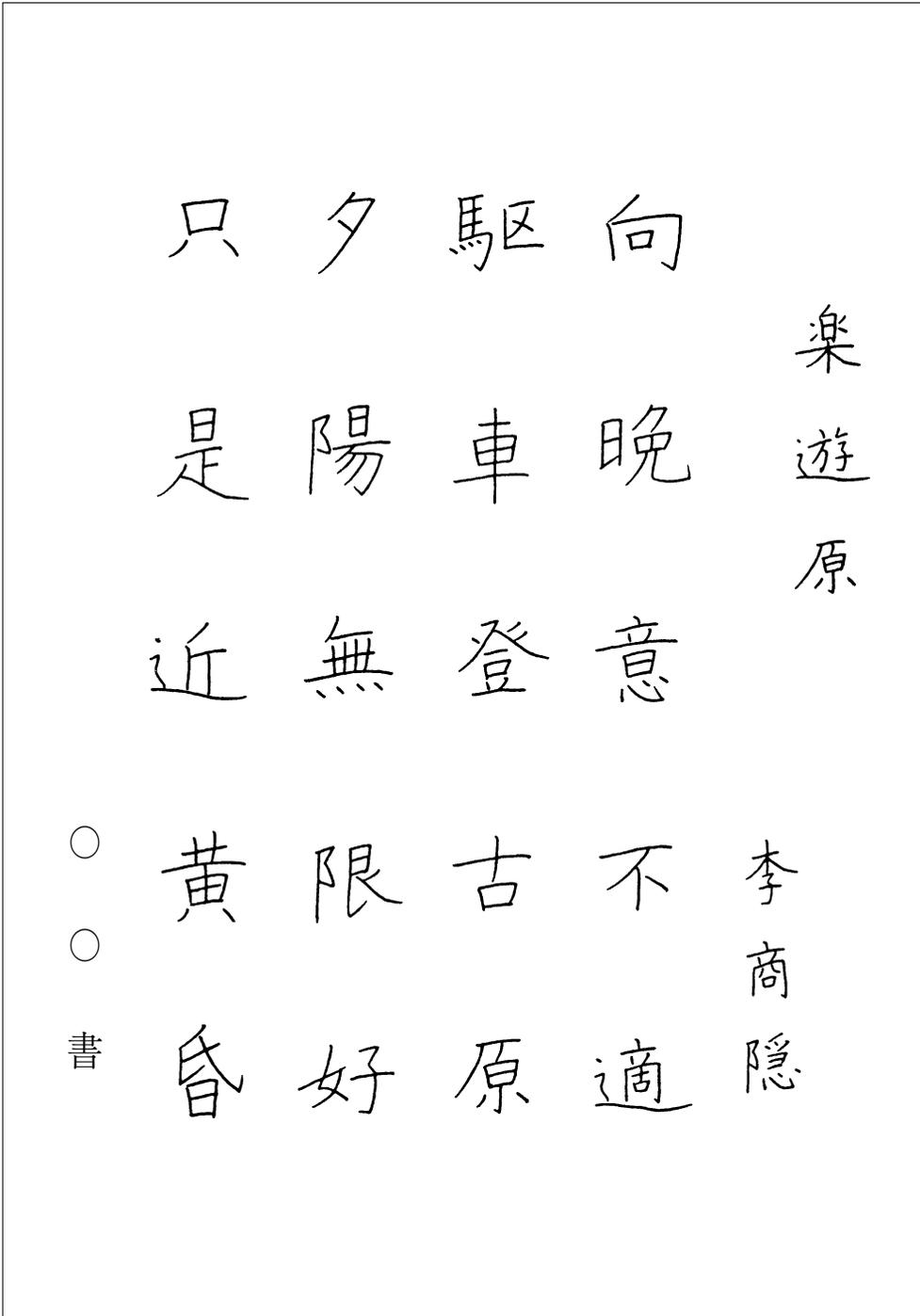
# 初段課題

(現在1級の方の課題)

①・②の二課題、用紙二枚を提出)

## 課題 ①

晩くればなに向むかとして意い適たわず。車くるまを駆かりて古原こげんに登のぼる。  
夕陽せきやう 限り無く好このし。只ただ是これ 黄昏こうこんに近ちかし。



●課題①……五言絶句を楷書体で書きます。

### ポイント

- ・楷書作品ですので、点画を連続させずに明確に書きましょう。
- ・紙面に対する文字の大きさや位置によって、おさまりの良し悪しが決まります。題名・作者名・本文・名前の大きさや位置に注意してバランスよくまとめられるよう、常に全体の構成を思い描きながら書き進めましょう。下敷きにめやすとなる線を入れておくと便利です。
- ・お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。

## 課題 ②

すると或夜の事である。日が暮れて
から急に風が出たと見えて、塔の風鐸 <small>ふうたく</small>
の鳴る音が、うるさい程枕に通つて来
た。その上、寒さもめつきり加はつた
ので、老年の内供 <small>ないぐ</small> は寝つかうとしても
寝つかれない。
○ ○ 書

### ● 課題 ② …… 芥川龍之介『鼻』より

**行書体**でおさめます。最終行には本文との調和を  
考え名前を入れてください。一行の字数は活字の  
通りでなくてもよいです。  
ふり仮名は書きません。

### ポイント

行頭・行末はなるべくそろえ、行の中心を通して書きます。  
行書作品ですので点画に丸みを持たせ、連綿を適宜とり入  
れてみましょう。流れ、リズムを大切にしましょう。

(現在初段の方の課題)

①・②・③の三課題、用紙三枚を提出

和田康子書

千里鶯啼緑映紅水  
 村山郭酒旗風南朝  
 四百八十寺多少樓  
 台煙雨中書

千里鶯啼いて緑紅に映ず、水村山郭酒旗の風、  
 南朝四百八十寺、多少の樓台煙雨の中

杜牧「江南春」

●課題①……七言絶句を行書体で書きます。

ポイント

- ・行書作品ですので、点画に丸みを持たせ、流れやリズムを大切にして、なめらかに書きましょう。
- ・行頭・行間などの位置に注意し、バランスよくまとめましょう。
- ・行の中心が傾かないように下敷きにめやすとなる線を入れておくと便利です。
- ・最終行には、本文との調和を考え名前を本文より少し小さく入れてください。
- ・お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。

## 課題 ②

一郎がすこし行きますと、
そこはもう笛ふきの滝でした。
笛ふきの滝というのは、まっ
白な岩の崖のなかほどに、小
さな穴があいていて、そこか
ら水が笛のように鳴って飛び
出し、すぐ滝になって、ごう
ごう谷におちているのをいう
のでした。
○ ○ 書

## 課題 ③

竹取の翁、竹を取るのに、此の子を見つ
けて後に、竹取るに、節を隔てて、よご
とに、金ある竹を見つくる事重なりぬ。
かくて翁やうやうゆたかになりゆく。こ
の児養ふほどに、すくすくと大きになり
まさる。
○ ○ 書

●課題 ②……宮澤賢治『どんぐりと山猫』より

**楷書体**でおさめます。最終行には本文との調和を  
考え名前を入れてください。一行の字数は活字の  
通りでなくてもよいです。

ポイント

行頭・行末はなるべくそろえ、全体のバランスを考えて書  
きましよう。罫の余白に気をつけ、文字の高さの中心を通  
して書きましよう。

●課題 ③……『竹取物語』より

**行書体**でおさめます。最終行には、本文との調和  
を考え名前を入れてください。一行の字数は活字  
の通りでなくてもよいです。ふり仮名は書きませ  
ん。

ポイント

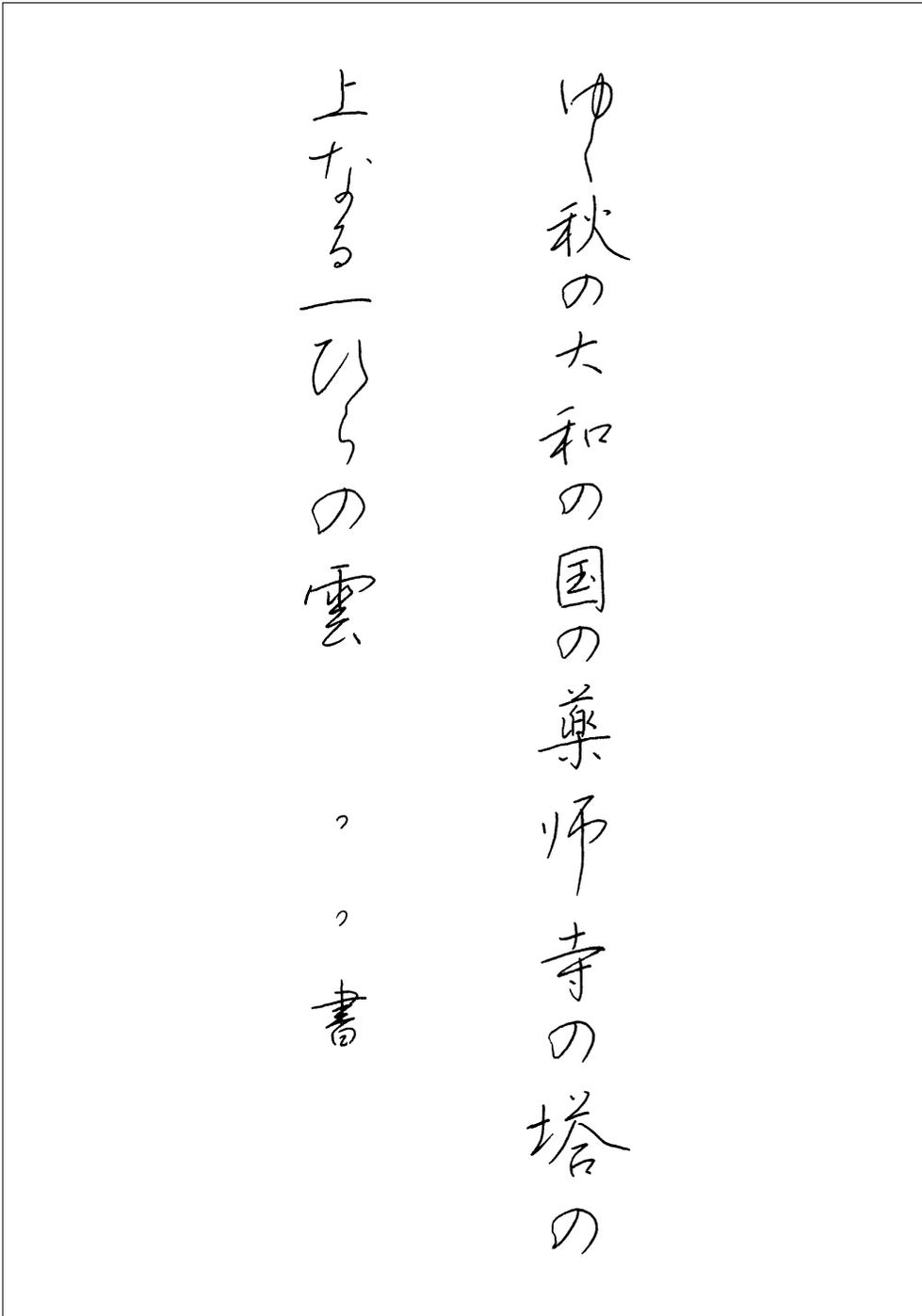
行頭・行末はなるべくそろえ、全体のバランスを考えて書  
きましよう。罫の余白に気をつけ、中心を通して書きま  
しよう。

三段課題

(現在二段の方の課題)

①・②・③の三課題、用紙三枚を提出)

衰輪東壽書  
みのわとうじゅう



ゆく秋の大和やまとの国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲 (佐佐木信綱の歌)

● 課題①……和歌を二行書きでおさめます。

ポイント

- ・ 紙面の中央に二行をバランスよく収めましょう。
- ・ お手本は提出用紙より小さく印刷されていますので、やや大きめに書きましょう。
- ・ 「〇〇書」のところには、名前を調和よく入れてください。

課題 ②

尋隠者不遇  
賈島

松下問童子  
言師採藥去  
只在此山中  
雲深不知處

○ ○ 書

課題 ③

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりして居る。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間程腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇むやみをしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。

○ ○ 書

●課題②……「隠者いんじゃを尋ねて遇あわず」 賈か島とう

松下童子しょうかどうじに問えば  
言いう師しは薬くすりを採とりに去さると  
只ただ此この山さん中ちゆうに在あらん  
雲くも深ふかくして處ところを知らしらず

本文は一行五字づめで四行に書きます。書体は自由です。最終行には本文との調和を考え名前を入れてください。

ポイント

題名・作者名・本文・名前のバランスを考え、字と字、行と行の間隔に注意し、紙面を十分生かしてください。

●課題③……夏日漱石『坊ちゃん』より

行書体でおさめます。最終行には、本文との調和を考え名前を入れてください。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。

ポイント

行頭・行末はなるべくそろえ、行の中心を通して書きましょう。点画の変化・省略をしつかり把握して書いてください。行書作品ですので点画に丸みを持たせ、連綿を適宜とり入れてみましょう。平仮名は草仮名そう（変体仮名へんたい）に換えないでください。ふり仮名は書きません。

# 四段課題

(現在三段の方の課題)

(1・2・3の三課題、用紙三枚を提出)

## 課題 ①

そんな風に思ひ出に導かれ
るままに、村をそんな遠くの
方まで知らず識らず歩いて来
てしまった私は、今更のやう
に自分も健康になったものだ
なあ、と思った。私はさうい
ふ長い散歩によって一層生き
生きした呼吸をしてゐる自分
自身を見出した。
○ ○ 書

## 課題 ②

人の、物を問ひたるに、知らずしもあら
じ、ありのままに言はんはをこがましとに
や、心惑 <small>まど</small> はすやうに返事 <small>かへりごと</small> したる、よからぬ
事なり。知りたる事も、なほさだかにと思
ひてや問ふらん。また、まことに知らぬ人
もなどかなからん。
○ ○ かく

●課題①……堀 辰雄『美しい村』より

楷書体でおさめます。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。最終行には、本文との調和を考へ名前を入れてください。

ポイント

行頭はそろえ、中心を通してバランスよくおさめましょう。

●課題②……吉田兼好『徒然草』より

行書体でおさめます。「○○かく」のところには、本文との調和を考へ名前を入れます。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。ふり仮名は書きません。

ポイント

行頭・行末はなるべくそろえ、行の中心を通して書きましよう。点画の変化・省略をしっかりと把握して書いてください。平仮名は草仮名(変体仮名)に換えないでください。

五月雨は心あらかなむ雲間より出く

る月を待てば苦しき

○ ○ かく

五月雨には人を思いやる心があつてほしい (源実朝)

ものだ。雲間から出る月を、今か今かと思つて待っていると、心も苦しいことだ。

● 課題 ③ …… 和歌一首

行書体で二行におさめます。ただし、一部草書を使つても構いません。「○○かく」のところには本文との調和を考え名前を入れます。行頭・行末・行間のあきに注意し、バランスよくおさめましょう。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。

ふり仮名は書きません。

ポイント

漢字と仮名の変換は自由、連綿も自由です。草書を使う場合、くずし方を把握して書いてください。

# 五段課題

(現在四段の方の課題)

(1・2・3・4の四課題、用紙四枚を提出)

## 課題 ①

しばらく人情界を離れた
る余は、少なくとも此旅中
に人情界に帰る必要はない。
あつては折角 <small>せっかく</small> の旅が無駄に
なる。人情世界から、ぢや
りぢやりする砂をふるって、
底にあまる、うつくしい金
のみを眺めて暮さなければ
ならぬ。
○ ○ 書

## 課題 ②

一年のうちで最も心地よい時候となりました。お元気そうで何よりです。旅先からの絵葉書と香り高い松茸が今日届きました。高地の山では紅葉も色鮮やかだったことでしょう。さっそく食卓に添えさせていただきます。いつもながらお心遣い嬉しく、本当に有難うございました。御礼まで。

●課題①……夏日漱石『草枕』より

**楷書体**でおさめます。最終行には、本文との調和を考え名前を入れてください。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。ふり仮名は書きません。

ポイント

行頭・行末はなるべくそろえ、中心を通してバランスよくおさめましょう。

●課題②……葉書に書く

**無罫紙**を使用します。葉書大(約15cm×10cm)の枠をその中に引き、縦書きにおさめます。**書体**、**構成**、**改行は自由**です。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。句読点はなくてもよいです。

ポイント

行頭・行末はほぼそろえて書きましょう。紙面を十分生かしてください。

課題 ③

山行

遠 上 寒 山 杜  
 白 雲 生 処 有 石 径 牧  
 停 車 坐 愛 楓 人 家 斜  
 霜 葉 紅 於 二 月 花  
 ○ ○ ○ 書

課題 ④

風たちてこまかに落つる竹の葉は  
 日の照る方へみなちらふなり  
 ○ ○ ○ かく

(北原白秋)

● 課題③……「山行」 杜牧

遠く寒山かんざんに上れば石径斜せつけいななめなり  
 白雲はくうん生ずる処ところ人家じんか有り  
 車を停とどめて坐そぞろに愛あいす楓林ふうりんの晚くれ  
 霜葉そうようは二月の花はなよりも紅くれななり

本文は一行七字づめで四行に書きます。書体は自由です。最終行には本文との調和を考え名前を入れてください。

ポイント

題名・作者名・本文・氏名のバランスを考え、字と字、行と行の間隔に注意し、紙面を十分生かしてください。

● 課題④……短歌一首

行書体で書きます。ただし、一部草書を使ってもかまいません。「○○かく」のところには本文との調和を考え名前を入れます。一行の字数は活字の通りでなくてもよいです。ふり仮名は書きませ

ポイント

漢字と仮名の変換は自由、草仮名(変体仮名)、連綿、散らし書きも自由です。草書を使う場合、くずし方を把握して書いてください。

## ワンランクアップへのアドバイス

### ■全体について

- A・楷書と行書の違いをはっきりさせましょう。
- B・紙面に対する文字の大きさを考えてください。
- C・漢字は大きく、ひらがなはやや小さめに書きます。
- D・ペン先の太さについては、字数や罫線の幅にもよりますが、普通は中、細書きの程度がよろしいでしょう。
- E・インクの色は、一般的な黒あるいはブルーブラックがよいでしょう。時折、あせたようなインク色を見かけますが、弱い印象を受けますので、購入するときに注意してください。
- F・詩文の場合は別となりますが、散文をまとめる場合、行頭行末をそろえるように心がけてください。全体がきれいにまとまって見えます。
- G・全体をまとめるにあたっては、全体を貫く流れを感じさせなければなりません。文を読みながらのリズムで次へ次へとペンを運んでみましょう。気脈の貫通と言われ、最も大切にしたいものの一つです。
- H・作品を締める最後の名前は、本文よりやや小さめに、位置は行の長さの半分よりやや下方、ここに入れると全体が安定するということを見つけてください。

### ■楷書作品について

- A・文字にはそれぞれ縦長、横広、四角、三角、円形といったおおむねの形があります。概形といいますが、この特徴をとらえておきましょう。

- B・漢字の字形を整える要領として原理原則と言われるものがあります。次にあげる基本的なものをしっかりとなえながら学習を進めてください。

- ①間を等しく書く（等分割の原理）：①横画の間をそろえる②縦画の間をそろえる③斜めの画の間をそろえる。
- ②横画をほぼ水平に書く（水平の原理）
- ③縦画は垂直に書く（垂直の原理）
- ④並んだ画は平行に書く（平行の原理）：①並んだ横画を平行に書く②並んだ縦画を平行に書く
- ⑤左右相称に書く（均斉の原理）
- ⑥つり合いをを考えて書く（均衡の原理）
- ⑦中心を通して書く（中心線一貫の原理）
- C・とめ、はね、はらいを確実にしましょう。
- D・ひらがなをしっかり学習してください。（文章の約70％はひらがなでつづられていると言われていました）

### ■行書作品について

- A・行書体の続け方や省略法を確実にしてください。
- B・連綿を美しく表現するために
  - ①一字一字の形をはっきり書きましょう。
  - ②基本的な連綿の仕方をつけてください。
  - ③やたらに連綿しても美しくありません。まず二字から三字にとどめましょう。
- ④連綿の呼吸は、前の字から次の字の一面までをひと呼吸で書くことと自然な流れを出すことができます。
- ⑤速度に変化をつけてみましょう。直線はやや速く、曲線はややゆっくりとなど。



〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 ☎042-572-3151 (代表)

ホームページ <http://www.n-gaku.jp>

書道・ペン字検定課題集 (保存版) 2022. 4月改訂

©NHK 学園 Japan

※ご記入いただいた個人情報は、成績管理等に使用します。また、NHK 学園書道・ペン字検定や書道展、スクーリング、通信講座のご案内に使用させていただきます。